

健康教育[®]

— 健康なくして教育はありえない —



創刊60周年記念号



「健康教育」[®]

——健康なくして教育はありえない——

1911年、河合グループ創業者である薬学博士・河合亀太郎がかかげた企業理念です。



薬学博士・河合亀太郎

こどもたちのすこやかな成長を願い、より一層お役に立てる情報のご提供・ご提案を目指し、発刊致しております。これからも、創業者・河合亀太郎の理念「健康教育」を大切に伝え続けてまいります。今後ともご愛読のほどよろしくお願い致します。

目 次

3	健康教育創刊60周年記念号ごあいさつ
4	祝60周年
5	自然・生き物とふれあう
7	遊びの活用
9	環境・衛生面の取り組み
11	食育
12	挨拶・ことばの育て方
14	「健康教育」の歩み
15	あらまし



— 健康教育®創刊60周年記念号 —

ごあいさつ

弊社季刊誌「健康教育」は今年で60周年を迎えることができました。これもひとえに原稿の寄稿にご協力を頂いた先生方ならびにご愛読を頂いている方々のご支援ご厚情の賜物と改めて深く感謝申し上げます。

「健康教育」は薬学博士であり弊社創業者の河合亀太郎が掲げた「健康なくして教育はありえない」という理念に由来しております。健康教育の原稿については、この理念に基づき、これまで様々な分野で活躍をされている多くの先生方に執筆をお願いして参りました。

亀太郎は健康教育の創刊にあたり「憲法で保障されているすべての国民が健康で文化的な生活を営むことや、教育基本法、児童福祉法に明示されている心身ともに健康な育成の為に、先生方の参考資料に供し利用をお願いする事を得ますことは、誠に喜びに堪えない処である。」と述べております。

創業者の理念に基づいて今後も先生方に参考として頂ける情報を提供する為には、創刊

60周年を迎えるにあたって我々も原点に戻る必要があると考えました。その為、今回の記念号では現在の教育・保育の業界において最前線で活躍されている先生方に、現場で何が起きていて何が求められているのかをお聞きしています。

今回、執筆をお願いした園では、こどもたちがとても魅力的な環境で成長していることを改めて実感しました。肝油ドロップを通して一世以上の間、こどもたちの健康をサポートしてきた私たちですが、このご縁を大切にしていより多くの園から情報を頂き、発信していく事で、さらに多くのこどもたちが学び、育む環境をサポートしていきたいと強く感じた次第です。

末筆ながら、この度の原稿執筆の依頼を通して多くの先生方からお祝い・励ましの温かいお言葉を頂きました。従業員を代表いたしまして心から御礼申し上げます。

編集長

健康教育60周年を お祝いで

「カワイ肝油ドロップ」の河合葉業(株)様が健康教育創刊60周年を迎えられましたこと心よりお祝い申し上げます。

子どもの頃から肝油ドロップには思い出があります。昭和26年頃であったと思いますが、いつもお腹がすき“いも”“かぼちゃ”を食べた時に学校で肝油ドロップを手渡されました。初めて食べる小さくて甘酸っぱいお菓子の様な肝油ドロップを恐る恐る歯の先で小さくかじり大切に食べたものです。夢のお菓子“肝油ドロップ”の出る日を楽しみに学校に行った思い出があります。いま考えると、はやりのサプリメントの走りで、子どもの栄養が考えられた健康食品であり、私たち子どもを助けてくださった訳です。国の将来を背負う子どものことを戦後の社会で考えて頂いた“先見の明”

学校法人浄光学園 認定こども園 ころこ 副園長 堀 和子

をもった河合葉業の経営者の方、社員の方々の見識ある方針に対して敬意を表します。将来長期に亘った発展と現在の繁栄の基になっていることでしょう。

本園でも“肝油ドロップ”を注文される父母の方も昔の思い出を話してくださり、我子にもと注文して下さいます。今後共に長く愛される“肝油ドロップ”を願ってペンをとりました。



未来を担う子供達 に大切な幼児教育

学校法人岡村学園 のぞみ幼稚園 園長 岡村 徳重

筆者
プロフィール

趣味：サッカーTV観戦、カメラ、観劇／休日の過ごし方：読書
／愛読書：生き方(稻盛和夫)／家族構成：妻と3人の娘・祖母
と母／モットー(座右の銘)：成せば成る



この度は、健康教育創刊60周年記念号発刊、誠におめでとうございます。60周年という永きに渡り続けられた事に敬意を示すと共に、これから先益々のご発展されますことをご祈念申し上げます。

さて、現在の幼児をとり巻く環境は、大きな変革期にあります。幼児教育は未来を担う子供達を育てる大事な事業であります。しかしながら昨今では、この幼児教育が担う役割が少々軽んじて考えられているような気がいたします。昔から三つの子の魂百までも言われたように、幼児期の子供達の教育は、その子の人格形成に多大な影響を及ぼします。この貴重な時期に子供達にどんな教育環境を提供するのか、より深く考えそれぞれの園が独自性を発揮し、素晴らしい

教育環境を整えていく必要があると思います。これから30年、日本の社会は大きな人口減少と向かい合わねばなりません。今こそ、幼児教育を担う我々が、地に足をつけて日本の未来のことを考え将来の子供達が生まれてきてよかったと思えるような素晴らしい世界を築いていきましょう。



森のようちえん

学校法人児童福音学園 ルーテル愛児幼稚園 園長

片桐 勝也

筆者
プロフィール

趣味: スキー、ボタリング(サイクリング)、乗馬、パラグライダー、スケッチ、数読(ナンプレ) / 休日の過ごし方: 夏はボタリング / 家族構成: 妻と息子の3人家族 / モットー(座右の銘): going my way



自然・
生き物と
ふれあう

私たちが遊ばせてもらう里山ではダメということとは禁句になっています。

森の入り口には、トトロが描かれた板が下がっていて木槌でトントン叩いて森の主人公の生き物にあいさつします。石ころだらけの坂道を登った先に大人の背丈の高さのガケがあります。山の土は粘土質ですから雨が降った後はずるずる滑り、大人の背丈の高さでも子どもにとっては難所です。踏んばって登ることを知り、手の汚れも気にしなくなって樹の根を掴み、わずかなくぼみに足をかけて登る工夫を覚えるにはそんなに時間がかかりません。自由に身体を使って遊べる自信は子ども達の表情に自信をみなぎらせてくれます。

中には泥で手が汚れることを嫌がる子どもや身体を使うことが苦手な子どももいます。この子

たちも、いつの間にか子ども達の輪の中に入っています。自信がついた時の表情は自然の中での遊びから生きる力を与えられたことを物語っています。

「健康保育」とは思う存分身体を使って遊べる楽しさを知ることだと思います。



しんちゃんの森に見守られて...

社会福祉法人西荒瀬協会 西荒瀬保育園 園長

佐藤 きよ子

筆者
プロフィール

山形県庄内地方生まれ。酒田市内の保育園3か所で44年間勤務。それぞれ特色ある保育園の中で現在、自然豊かな環境の元で子ども達と共に地域に密着した保育を心がけている。



自然・
生き物と
ふれあう

「先生、今日もしんちゃんの森へ行く?」と顔を覗き込む子ども達。園舎のすぐ西側にある「しんちゃんの森」での遊びが大好きです。森林環境教育の一貫として平成20年に庄内森林管理署と「遊々の森…愛称:しんちゃんの森」の協定を結び、この森をフィールドに山形県みどり環境税を活用した「みどりの保育園」推進事業に取り組んでいます。

その「しんちゃんの森」での春をご紹介します。やさしい風に誘われて、クロマツの木に先輩たちが作った巣箱。その巣箱の中から顔を覗かせたりスに歓声があがりました。近くには、キジの姿も見られました。榎木には二年前にコマ打ちした椎茸が見事に生え、喜んで収穫した子ども達。早速、給食に使われ美味しくいただきました。

春を待ちわびた子ども達は木登りや鬼ごっこをしたり、足かけロープで風と遊んだり、思い思いの遊びを楽しんでいました。しんちゃんの森での遊びが大好き、笑顔満載で嬉しい春を体いっぱいを感じている子ども達です。

この素晴らしい環境の下で日々過ごせることの幸せを、関係団体の皆様方に感謝しながら、私達もこの自然を大切に守り、子ども達に引き継いで行かなければと強く感じている今日この頃です。



個々を大切に、 かたく信頼関係の結べる 保育を目指して

創立35年目の葵ヶ丘保育園。園舎は3年前に増改築し、定員も90名から120名へと増加。園庭の片隅には、べこのこ(牛)がそして2階にあがる階段の踊り場の壁にはウミガメの剥製。およそ保育園には似つかわしくないふたつの動物がこどもたちを見守っている。

こどもたちは170センチメートルの高さの牛にネットの太鼓橋を伝って登り、背中に乗るとぐんと高くなり、自分が偉くなったような気持ちにさせてくれる牛が大好きだ。気持ちに焦りがある時には、「ゆっくり慌てなくてもいいんだよ。」と私たち職員を諭してくれ、無くてはならない存在となっている。

保育園の一日は長い。のびのび遊び素直に包み隠さず自分を表現し、異年齢児の関わり合いの

社会福祉法人みのり会 葵ヶ丘保育園 園長 宮崎 容子



中から逞しさ、競争心・やさしい思いやりの心を育み、何事にもいっぱいの中から自分で選択し体験し将来の自立に向け急がず根気よく遊びを通して無理なくこどもに伝わるよう、全職員が力を合わせこども達の為に努力しています。



感性豊かに育つ保育

本園は、琵琶湖の北に位置し、歴史ある小谷山の麓の田園に囲まれた、自然豊かな地域にあります。広い園庭には、琵琶湖の形をしたビオトープ、草花やりんご、みかん、さくらんぼなどの果樹、畑もあり、みんなで収穫を楽しみます。こうした四季折々の自然や小動物に触れることで、伸び伸びと豊かな心が育まれます。

又、み仏さまに手を合わす保育を通して、あらゆるいのちがつながっていること、いろんないのちに支えられて今があること、自他のいのちがかけがえのない大切なものであることを子どもたちに伝えています。

子どもたちの大好きな和太鼓の取り組みでは、伝統楽器に親しむ中で、挨拶や返事、正しい姿勢を身につけ、みんなで力を合わせることの

社会福祉法人光寿会 小谷保育園

すばらしさを感じ取ってくれています。

小谷保育園では、子どもたち一人一人を大切にしたい保育環境づくりをめざし、子どもたちがいろんな遊びや体験を通して感性豊かに育つよう保育をすすめています。



野生児を目指す

学校法人八尾聖光学園 認定こども園 聖光幼稚園 園長
林 和代

筆者
プロフィール

大阪府八尾市にある私立聖光幼稚園で約40年間勤務。
聖光幼稚園は平成27年度より認定こども園になる。

自然・
生き物と
ふれあう

当園の春の遠足は、奈良公園にある飛火野(とびひの)という草原で奥地探検をすることになっています。草原の奥の崖下り、崖登りをします。

その野生的で過激な冒険の時、毎年私たちは大きなショックを受けます。今の子どもたちの脆弱さを、まざまざと見せつけられるからです。具体的に言うと、危機回避能力・問題解決能力がとても弱くなっています。この子たちの将来が心配です。これからの長い人生、時には辛いこともあるはず。そんな時、ずっと泣いていても問題は解決しません。涙を振り払って進んでいかなくてははいけません。

そのためには、まず保護者と園が連携を取り、心身共に逞しい子どもを育てていきたいと考えています。そして園の行事などを通して小さい時

から幅広い経験を重ねてもらい、その中で起こる様々な出来事に対して、自分で考えて自分で解決しようとする力を身に付けていきたいと思っています。

冒険をさせてもらえない風潮の昨今、当園で過ごす間が勝負です。そのような心意気で保育に臨んでいます。



幼稚園で学ぶ

学校法人篠ノ井学園 俊英幼稚園 園長

小林 慶二

筆者
プロフィール

趣味: ジョギング・スカイウォッチング／休日の過ごし方: 小さな畑で野菜作り／愛読書: 内田康夫、西村京太郎、齋藤栄等／家族構成: 家内と二人暮らし／モットー(座右の銘): 「継続は力なり」



遊び
の活用

教師の役目の一つは、こどもに学問を教え込むのではなく、こどもの持っている能力という名の「引き出し」の開け方を示唆してあげる事だと思います。こどもは、いっぱい引き出しを持っています。教師は、その多様さに気づき、方向をつけてあげるお手伝いをしたいものです。幼稚園時期のこどもは、若く成長する柔軟な脳を持っています。発展出来る頭脳は、この時こそチャンスでしょう。

今願う姿は「豊かな遊び」です。遊ぶ時は楽しく徹底的に思いっきり遊ぶ。「楽しかった」「もっと楽しくなる遊び方もあるかもしれない。」「先生こんな風にやってみていい?」と主体的な考え方を学びます。こんな場面を沢山作りたいと思っています。

幼稚園であえて字を教えなくとも、土台のできたこども達は、学校に入れば、乾いた大地のよう

に、学問を欲し、多量の水(学び)もしっかりと頭の中にしみこませることができるよう。

朝、こどものお迎え時に「おはようタッチ」をしています。「園長先生もっと手を高く」と年長さん。ジャンプでハイタッチですね。思いっきりジャンプしてタッチします。「今日はもっと高く」と日に日にその高さが増してきました。今日もこども達が園長室に駆け込んできました。『園長先生縄跳び見てて。』『よくがんばったね。』と、プーさんのゴム印を、手作りカードについてあげました。



いろいろな経験を通して

すみれ保育園では、健康で明るい子ども、たくましい子ども、自主性のある子ども、挨拶ができる子どもを育てることを目標に園の方針でもある「立腰保育」を基本として取り組んでいます。「立腰保育」とは、姿勢を正すことで集中力・持続力・やる気・我慢強さ・心身の統一・心の落ち着きが身に付くことを目指した保育です。

園の特徴としては、いろいろな経験をすることで豊かな感性が育つようにしています。特に年長組の主な年間行事では花まつり・田植え・芋の苗植え・稲刈り・芋ほり・タンチョウ見学・陶芸教室・雪遊び・お茶会などいろいろな経験をしたり触れ合ったりすることで子ども一人一人がいろいろな思いを受け止めたり感じ取ってもらえたらと思っています。

社会福祉法人総社福祉会 すみれ保育園
和田 ひとみ

今は毎日暑い日が続いていますが、子ども達は大好きな水遊びやプール遊び・色水・泥んこなど暑さに負けず元気いっぱい遊んでいます。

友達や先生たちと遊びを通して友達と関わる楽しさや信頼関係をつくっていかれたらと思っています。



幼児の遊びは学び

「遊び」は「学び」であり、「科学」である。これは松山認定こども園 星岡の環境です。

毎日園庭では、草花の色水づくり、土山の泥団子や泥遊び、おろし金器で石鹸をするシャボン玉づくり、絵具での浸し染めや表現活動、それになんと言っても本物の調理器具や包丁を使っの料理。

節分は、年長児が一人一匹のホウタレイワシを手でさばきツミレ団子を作り、地域の方々から頂いた野菜を年中・年少児が包丁で切り協力してツミレ汁を作り食べます。子どもたちは、内面の鬼をいわしを食べ追い払います。こんな伝統行事も大切にしています。

このように、異年齢が関わって遊ぶ環境では楽しい会話が聞かれます。「なぜ色が変わったんやろ?」「○○のさら粉かけるとピカピカ泥団子になるよ」「シャボン玉の石鹸を溶かすのは水よりお湯のほうがいいよ」

学校法人松山学園 松山認定こども園 星岡 園長
西宮 京子

等々。その遊びの動線上には自然とのかかわりがあります。子どもの手によって堆肥やEM菌で土の再生がなされているのです。プランターには、野菜や花が植えられ、日々世話をしています。収穫した時には自分たちで料理をし、各クラスへおすそ分けをします。野菜嫌いな子どもこの威力には負け、口にできるようになってきます。戸外でよく身体を動かし、お腹が空くと自然とおいしくよく食べよく寝ることの循環になります。

幼児期に育てたい心情・意欲・態度を培う教育は、健康教育でもあるのです。



子どもだけん 遊びたかっぱい

社会福祉法人文政福祉会 文政保育園 副園長

宇佐美 純代

筆者
プロフィール

趣味：マママルシェ歩き／休日の過ごし方：女子会／愛読書：赤川次郎／家族構成：夫と夫の父と三人暮らし。長男はテレビ局、長女・次女は保育士／モットー：笑顔

遊び
の活用

文政保育園は57年目を迎えました。

文政保育園には、昔から変わらないものがあります。それは、子どもの居場所で在り続けることです。子どもがいつでも遊べる環境で迎えます。

昔も今も、子どもは遊びを求めています。それは、土があるだけでままごとができ、家族ごっこができます。木があることで、木の葉で遊び、木登りを楽しみ、高いところでの冒険ができます。広告紙が一枚あることで、飛行機ができ、お財布ができます、裏白だとメモ帳ができます。子どもに任せると、アートな作品ができていきます。

遊びは子どもを育てます。そして、子どもは自主的に遊びながら、多くのことを学びます。物の見立てができ想像の世界が広がります。砂場での山づくりでは、水が高いところから流れることの

不思議さ、砂の中に消えていく水に気づいていくことの何もかもが、子どもの発見や、考えを引き出してくれるのです。

子ども自身が出会う不思議なことが、子どもが考えることの原点だと思います。一人ひとりの子どもが輝いて生きていく「子どもが真ん中にある保育園」です。



輝く笑顔に

社会福祉法人福島福祉施設協会 福島ふたば保育園 園長

鈴木 淳子

環境・
衛生面の
取り組み

東日本大震災から早や4年が過ぎました。震災直後におきた原発事故で、「福島」の名は世界中に広まり、追い打ちをかけるように風評被害が広がり怒りさえ覚えました。しかし、事故当時は、水や食料を得るために四苦八苦しましたが、次第に全国から水や日用品、紙おむつ等の支援物資を届けて頂き、お蔭様で保育園の子どもたちは、不自由なく生活することができましたことに感謝しています。

当時は、放射線量が高いため外遊びができず、子どもたちの運動機能の低下が心配されました。そこで、室内での運動遊びを強化したり、線量の少ない場所へ出かけ外遊びを思いっきり楽しんだり、子どもたちの体力を維持するための取り組みに努力を惜しみませんでした。少しずつ、除染も進み、線量計測しながら低いことを確認し、戸外遊び

をしていましたが、昨年度からは、制限なく外遊びや土手を歩いたり、あちこちの公園へ散歩にでかけています。川のせせらぎ・そよ風を肌で感じ、きれいな草花を摘んだり、匂いをかいだり、ダンゴ虫やクワガタ虫など手で触れながら捕まえたりできる喜びを、子どもたちも私たち保育士も感じています。

当たり前のように行っていたことが当たり前に出来ないことの苦悩を体験した私たちですが、子どもたちの元気と笑顔が何よりの宝だということを実感しました。私どもの目指す「笑顔あふれる温かい雰囲気の中で、子どもたち一人ひとりに寄り添い、心身ともに健やかな成長を育む」という保育理念に沿って、職員一丸となり、未来を担う子どもたちの成長を応援していきたいと思っています。

今、園では

学校法人浄智学園 船橋幼稚園 理事長・園長

田中 恵美子

筆者
プロフィール

昭和62年度より28年間浄勝寺の代表として、園の理事長・園長として36年間努め、地域の方とのふれあいを大切にしています。



我が園では、昭和10年創立、今年3月に第80回目の卒園生を送り出しました。船橋市の漁業に携わる地域の人々と共に、お寺の幼稚園として親しまれ歩んで参りました。

戦後間もなくは、内事は衛生管理の悪い時代でもありました。とはいえ、子どもたちは、逞しく生き生きと劣悪な条件を物ともせず成長していたように感じます。時代の移り変わりと共に、世の中は近代化となり生活環境も目を見張るほど良くなりました。衛生面でも素晴らしくきれいな環境の中で育つようになり、病気とは無縁と考えがちですが、逆に人間の抵抗力が弱くなってきているように思います。

集団生活を送る環境の中では、早く病気の経路を突き止め未然に防ぐことが必要となってきました。

ます。我が園では子どもたちに、手洗い、うがい等の習慣づけをはじめ、家庭の理解・協力を得て大きな成果をあげています。また、大勢が一同に集まる時には、空気清浄を行うなど環境を整え感染予防・感染拡大予防に努めています。まず、抵抗力をつけることと、早めの予防に努めることが大切かと思います。



園づくり・人づくりは、環境・エコから。

学校法人藤学園 港北幼稚園 園長

加藤 正夫

筆者
プロフィール

創立63年目、二代目園長として「温故知新」を大切に、子どもと笑い、感動し、「幸せ」を感じています。



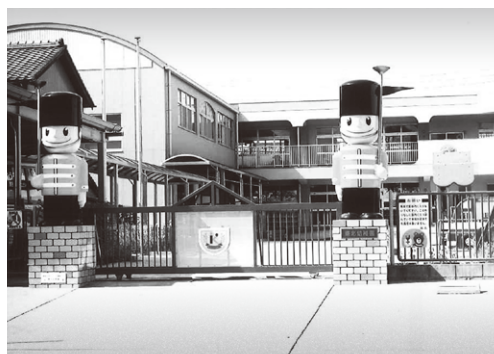
地域の皆様そして子どもたちのご縁を頂き60数年、最近では環境・エコ幼稚園として認めていただいております。

ハード面では、開園して47年間、先生による分団通園(これこそ本当の健康づくり・エコですが。)でしたが、運動場拡張を機に、平成12年に天然ガスで走るスクールバスを導入し、静かにエコ運転をしています。そして、7年前には、太陽光発電を設置し、園児にもわかるモニターも設置し毎日太陽の大切さを感じています。また園内の照明をLED照明に取り換え、省エネにつなげています。

ソフト面では、環境教育として、運動場や畑に花の種や野菜の苗植えをして収穫して食べる食育につなげています。(本当においしいです。)また、資源回収活動としてペットボトルのキャップ(発展

途上国のポリオワクチンへ)やアルミ缶・牛乳パック(中部盲導犬協会へ)を回収するなど交流教育につなげています。

最後に今後も、環境・エコ幼稚園として、環境に配慮した「園づくり・人づくり」の教育活動に取り組み、社会にPRしていきたいと思っています。



野菜の栽培・収穫体験で食育を实践

学校法人栗の実学園 栗の実幼稚園 園長
平野 章雄

筆者
プロフィール

趣味：草花・バラ栽培、読書／休日の過ごし方：庭いじり／愛読書：時代小説（池波正太郎、藤沢周平、上田秀人作品）／家族構成：妻と二人（子供4人は独立しております）



食育

当園は栃木県南部の小山市に位置し、開園41年目を迎えました。335名の園児が在籍する幼稚園と0～2歳の低年齢児39名が在籍する保育園が隣接し、日頃から幼稚園と保育園の施設・設備共用や職員・園児の交流が盛んに行われております。

当園では年長組が中心となり、農園3ヶ所（1700㎡）を使い、1年を通して野菜の栽培を行っております。野菜の栽培や収穫体験は、身近な旬の食材を体感し、食べ物は自然の恵みからできていることを実感させると共に食べ物に関する興味関心を深め、感謝する心を育むことにつながります。収穫した野菜は給食やおやつ、調理保育に利用して、食育への取組みを図っております。子どもたちだけではできない部分は、保護者に参加していただき、保護者自身の食に対する関心や知識の向

上にも役立ち、保護者・子どもたちの両方に豊かな食体験をできる場となっております。

9月に種まきした大根を12月に子どもたちが収穫し、保護者が寒風の中で水洗いした1000本の大根が園庭に干されている風景は圧巻です。その後職員が、昔ながらの漬け方で15樽の沢庵漬けをし、3学期に入って毎日のように沢庵をポリポリと食べるのが恒例となっております。



楽しい食卓

学校法人五泉いすみこども園 園長
宗像 亮二

筆者
プロフィール

大分県出身
大分、宮崎、岐阜で牧師、園長としては宮崎で5年、新潟で5年



食育

当園は55年間、幼稚園そして幼稚園として地域の保育に関わっています。

2015年4月より幼保連携型認定こども園になりました。0歳児～2歳児の保育室と給食室を新築して新たに定員が20名増えました。大きな変化の一つは自園調理による給食の提供です。

新しい厨房にはスチームコンベクションオーブンを据えています。これまでは業者搬入給食でしたので、自園で提供することの大変さに驚いているところです。行政の指導を受けながらようやくこぎ着けましたが、給食を楽しむ園児の姿に慰められます。「冷凍ミカンはシャリシャリだね。」、新潟の名物「たれカツ丼」の時は「今日は僕の好物だった」という声もありました。保育者の感想を生かしながら園児に合った食事を提供できることは本当にあ

りがたいことです。そしてキリスト教保育の観点から最も大切に考えているのは食卓の雰囲気です。まず第一に安全な食事です。アレルギーによる事故があってはなりません。第二には、食事についての感じ方が園児によって微妙に違うことに気づいて保育者が配慮することです。第三には、園児が人を気遣う気持ちを持つことです。

楽しい食卓は保育目標の一つになっています。



豊かに生きぬく力

学校法人三宅学園 海田幼稚園 園長
嶋村 康子

「よいしょ、よいしょ」「せーの。」保育農場から季節の野菜を収穫する園児たちの生き生きとした声が聞こえてきます。7月には自分たちの身長より高く伸びたトウモロコシの収穫を行いました。そのトウモロコシを茹でてみんなでいただく。「あーい。」「おいしいね。」と、キラキラと輝く子どもたちの顔を見ることができました。

当園では、これからの永い人生を豊かに生き抜いていくために必要な心と体の基礎づくりをする大切な場であり、時であることを深く認識し、適切な環境を子どもたちに与えると共に、健康な体力づくりを基礎とし、豊かな情操の芽を育て、道徳性をはかり、礼節と感謝の心を養うと同時に、附設の保育農場(サンフィールド)で土や自然に親しみ季節の野菜を育て、収穫して食べるという取り組みを

行っています。子どもたちは、種まきや草抜きを行い、成長の様子を観察したり、一緒に世話をして土とふれあい、収穫を楽しんでいます。収穫をした野菜は、じゃがいもや玉ねぎはカレーパーティーで、さつまいもはおいもパーティーで、と自分たちの手で調理して食べることで更に育てることの喜びを感じています。

こうした栽培活動を通して豊かな心と生命の大切さを育て、生きる力のみならず元気な子どもたちを育てていき、この取り組みが子どもたちの健やかな成長に大きく役立つことを期待しています。



子供達の限らない成長を願って

市毛フレンド保育園 副園長
大関 和子

筆者
プロフィール

高校の恩師に「乳幼児教育は大切よ、ずっと続けてね」賀状には必ず書かれていました。新潟から茨城に来て45年が過ぎました。体力が続く限り続けたい仕事です。生涯現役。



たくましい体。豊かな情操。すぐれた知能の保育目標を実践して37年。

乳幼児期のお子さんをお預かりするのに必要なのは、保育園としての養育、幼稚園としての教育…即ち、幼保を兼ねた園で出発しました。もちろんそれには、無認可園しか方法はありませんでした。

保護者様からお預かりする保育料だけの運営は大変な苦勞です。園長先生は職員の給料、経費を念出する為に土地を手離し、給料は何年もない生活が続きました。私財を投げ出して頑張っている姿を目の当たりにすると、「現場は任せてください」と、こちらも気合いが入ります。そして、迎える園児には「待ってたよ」と。

開園当初56名の園児は、年々増え続け約10

倍にもなりました。

ご近所の方や園の前を通過して出勤する方々1人1人に「いってらっしゃい」と見送る園児の言葉に園の周りが明るく活気づきます。

心を結ぶ挨拶は、笑顔になります。笑顔は健康である証拠です。子供達は小さな足跡を残しながら限りなく成長しています。



心を紡ぐ環境づくり

学校法人清栄学園 七里が浜楓幼稚園 園長

高橋 栄

筆者
プロフィール

幼稚園教諭を経て二世園長に就任。創立47年目、子どもの円満な成長を願い園とファミリーと地域の環境作りを大切にしています。



挨拶・
ことばの
育て方

子どもたちの健やかな成長は、育まれる環境から大きな影響を受けて発達し、その適応力は大人の数倍も強く「生きようとする力」を発揮していきます。

乳児期に暖かな母子関係が確立すると、子どもの心は周囲の世界へと出かけていきます。幼児期は、友達の中に入りたい気持ちが強くなります。幼稚園では、初めに自分の「心」を伝えるために必要なツールの「言葉」を豊かに育てるため、子ども同士の「お喋り」「話し合い」「発表」「読み聞かせ」、また、絵本文庫の充実と貸し出しによりご家庭でも「読み聞かせ」を推奨し、子どもたちの語彙の獲得と表現力の育ちを応援しています。

とりわけ、園文庫は子どもたちにとっても心地よい空間となり、絵本の貸し出しは年間8000冊。

1人平均約70冊にもなります。語彙数が豊かになると、仲間との「心」の共有がスムーズになり、経験を分かち合える喜びが、より様々な事柄への興味関心を広げていきます。

私たちは、子どもたちが嬉しさ楽しさを沢山体感できるように、保護者や地域の方々とも連携をして環境作りを推進しています。



■「健康教育®」の歩み

1956年

健康教育創刊 第1号

田中文字事務次官(当時)より祝辞のお言葉、発刊の辞を河合亀太郎より記載

河合製薬株式会社 取締役会長 薬学博士 河合亀太郎

「国を興す基は教育の振興にまたなければならぬし、教育の大本は子供を健康に育てることにあると信じます。」「今後、“健康教育”という雑誌を順次に発行して健康教育上の諸問題について、専門家の諸研究、学校教育の実践と其の施設、図譜、統計等を盛り上げて先生方の参考資料に供し、利用を御願いすることを得ますことは、誠に喜びに堪えない処であります。本誌が逐年内容を充実し得て皆様方の学童教育の一助ともなり得ましたら幸甚の極みでございます。」

1987年

健康教育 第100号

表紙 昭和61年度健康優良学校 全国特別優秀校 表彰式
＜朝日新聞社提供＞

優秀校は“健康”を教育目標と掲げ日々実践

1993年

健康教育 第122号

表紙 健康推進学校表彰記念パーティーで児童の質問にお答えになる皇太子殿下ご夫妻＜朝日新聞社提供＞

すこやか大賞で選ばれた静岡県浜松市立有玉小学校 榎吉清光先生が社会的健康・精神的健康・身体的健康についてご執筆

1998年

健康教育 第138号

健康教育の表紙がカラーに

幼児の肥満とやせの判定表が記載(平成10年1月12日付母子保健手帳の改正に伴い一部抜粋したもの)大阪医科大学小児科 医学博士 玉井 浩先生が小児肥満の予防についてをご執筆

2000年

健康教育 第143号 新創刊

現 代表取締役会長 河合昭彦

「「健康」とは本来「肉体的にも精神的にも生きていくのに良好な状態(角川国語辞典)」を意味します。現在のこどもをとりまくさまざまな問題にできるかぎり対応していくことが、21世紀における「健康教育」に不可欠と考え、今回本誌を刷新することといたしました。「健康教育」の実践に携わる数多くの方々のお考えやノウハウが、本誌上で公開され、それが共有化されていくことを目指した誌面づくりをしてみたいです。」

2004年

健康教育 第149号 新創刊

現在のビタミンC肝油ドロップ、カルシウム肝油ドロップのデザインに切り替わる

食に対しての健康からこどもを取り巻く環境についても多く記載

2015年

健康教育 第175号 60周年記念号



健康教育 創刊号



健康教育 第100号



健康教育 第122号



健康教育 第138号



健康教育 第143号



健康教育 第149号

■ご寄稿園紹介

- 北海道紋別郡 学校法人浄光学園 認定こども園 こころ
- 秋田県秋田市 学校法人児童福音学園 ルーテル愛児幼稚園
- 山形県酒田市 社会福祉法人西荒瀬協会 西荒瀬保育園
- 福島県福島市 社会福祉法人福島福祉施設協会 福島ふたば保育園
- 茨城県ひたちなか市 市毛フレンド保育園
- 栃木県小山市 学校法人栗の実学園 栗の実幼稚園
- 千葉県船橋市 学校法人浄智学園 船橋幼稚園
- 東京都足立区 学校法人岡村学園 のぞみ幼稚園
- 神奈川県鎌倉市 学校法人清栄学園 七里が浜楓幼稚園
- 新潟県五泉市 学校法人五泉いずみこども園
- 長野県長野市 学校法人篠ノ井学園 俊英幼稚園
- 静岡県浜松市 社会福祉法人みのり会 葵ヶ丘保育園
- 愛知県名古屋市の 学校法人藤学園 港北幼稚園
- 滋賀県東浅井郡 社会福祉法人光寿会 小谷保育園
- 大阪府八尾市 学校法人八尾聖光学園 認定こども園 聖光幼稚園
- 岡山県総社市 社会福祉法人総社福祉会 すみれ保育園
- 広島県安芸郡 学校法人三宅学園 海田幼稚園
- 愛媛県松山市 学校法人松山学園 松山認定こども園 星岡
- 熊本県八代市 社会福祉法人文政福祉会 文政保育園

■協力園

浦和こばと幼稚園（埼玉県さいたま市）

■「健康教育®」あらまし

こどもたちのすこやかな成長を願って創刊された季刊誌「健康教育®」。
1956年の創刊以来、創業者・河合亀太郎の信念を伝え続けております。
読者対象/日本全国の小中学校・幼稚園・保育園の学校長や園長を始めとする先生方・
保健主事・養護教諭・給食関係者など。

平素より「健康教育®」をご愛読頂きまして、誠にありがとうございます。
編集部では、皆様のお役に立つよりよい紙面づくりを目指しており、皆さまが実践されている健康教育の参考にして頂ければ幸いです。ご覧になりたい内容やテーマ、
また各園・学校紹介（例：当園では、健康教育の一貫として、このようなことを行っています等）、そのほかご意見・ご感想がありましたら是非お聞かせください。
なお、お問い合わせは下記の連絡先までお願い致します。

お問い合わせ・ご連絡先

河合薬業株式会社 「健康教育®」編集部

〒164-0001 東京都中野区中野6丁目3番5号

TEL: 03-3365-1156 (代) FAX: 03-3365-1180

E-mailアドレス: genkikko@kawai-kanyu.co.jp

ホームページアドレス: <http://www.kawai-kanyu.co.jp>

「肝油ドロップ」って、なんだろう。



それは「元気っ子ビタミン」。



ビタミンC肝油ドロップ

ビタミンA・D・Cが
入っています。



カルシウム肝油ドロップ

ビタミンA・D・カルシウムが
入っています。

肝油ドロップは「よみきかせ」を応援しています。

「よみきかせ」  **TOKYO FM** [FM80.0MHz (月曜日～木曜日14:38頃～)]